

広がるデザインの可能性

新しいエココミュニケーション

梅雨の晴れ間に覗く陽射しの強さに、「本格的な夏が近づいてきているなあ」と肌で感じることも多くなりました。百貨店やショッピングモールには色とりどりの団扇や帽子が並べてあったり、私の家でも簾や風鈴が出てきたりと、みなさんの周りでも本格的な夏の準備がもう始まっているのではないのでしょうか。

先月気象庁が発表した7〜9月の3カ月予報の平均気温では、東日本はやや高温傾向とのこと。やはり今年も「暑い夏」となりそうです。夏こそ節電を意識する季節です。どうやって快適に涼をとるか、どつやつつてなるべく電気を使わないようするかが日本全体の課題です。

新しい猛暑対策

さて、みなさんは「クールシェア」という環境省の取り組みをご存知でしょうか。こ

れは、1人1台のエアコンをやめ、みんなで涼しい場所に集まって暑さをしのごうというものです。日本一暑い街として知られている熊谷市では、すでにこの「クールシェア」がいち早く行われており、例えば街のカフェやレストランなどに行き、「エアコンを止めてきました」と伝えると、ドリンクの割引や1杯サーブスなど、特典がつけられる場所をクールシェアスポットとして登録、2012年中に参加店を500店まで拡大すべく、市全体で取り組んでいます。

エコをデザインする

この「クールシェア」は、もともと多摩美術大学デザイン学科 堀内正弘教授の昨年のゼミで、「東日本大震災・2011年の計画停電をきっかけに、デザイナーは何ができるか」という問いかけに対して生みだされた考え方で、eco japan cup 2011でエココミュニケーションショングランプリを受賞したのが契機となり、今夏の省エネ施策のひとつとして環境省が取り上げることになりました。

「クールシェア」という考え方によって、新しい節電方

法が提示されただけでなく、地域ぐるみのキャンペーンが生まれ、節電を通じた新しいコミュニケーションが育まれています。日本全体が節電に取り組めるとき、「エコの国、日本」というコピーが似合うような国になっているかもしれません。

変化するデザインの形

「デザイン」という概念は、徐々に変化してきているように思います。モノをデザインするのはもちろんですが、コトのデザインもデザイナーの仕事になってきています。

デザインの力だけで人や世の中を動かすことは容易なことではありませんが、人と人が繋がれ、一つの考えを共有し合うことで、今回ご紹介した「クールシェア」のような、新しい形のコミュニケーションも生まれるのだと思います。そしてそのきっかけ作りをデザイナーが担っていくというスタイルが確立されつつあると感じています。

これから私自身が一人のデザイナーとして何ができるのか、考えながら日々過ごしていきたいと思っています。

(企画制作部 石田麻純)



029(233)6143
www.lilyacademia.com

一人ひとりの学ぶ力が伸びる、毎日が楽しい学習塾！
LA リリーアカデミア
Lily Academia



- ・信頼と実績、リリーグループの学習塾
- ・パソコンだから実現できる、「わかりやすい」「楽しい」自立学習システム
- ・無料体験レッスン随時開催中！

